

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成29年4月

福井県知事 西川 一 誠

福井県教育長 森 近 悦 治

29年度の施策

1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

◇幸福度日本一福井へ 移住・定住戦略

○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく

- ・普通科系高校1年生の企業訪問について、文系・理系・女性などのコースを増やし、福井の職業や企業の魅力を伝え、大学卒業後に福井で働く意識を高めます。

2 福井から人材育成

◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】

○「ふるさと教育」の充実

- ・全中学校・高校の授業等で「ふるさと福井の先人100人」を引き続き活用し、先人の生き方や考え方について発表や討論を行う学習を進め、福井や自らの将来を考える機会を増やします。

- ・福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」の内容を充実し、小・中学生が古典に親しむ機会を増やします。
- ・白川静博士の著作物や白川文字学の教材を活用した研修を行い、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を増やします。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
漢字指導者数(累計)	200人	263人	283人	300人

- ・書道団体と連携し、学校に書写・書道の外部指導者を新たに派遣するとともに、筆使いの基本など、全小中学校の教員を対象に研修を実施します。
- ・本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を全ての高校に拡大していきます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
「ふるさと先生」による特別授業実施校	21校/年	25校/年	25校/年	26校/年

○「使える」外国語教育の推進

- ・ 小学校英語の教科化の先行実施に向けた指導案や教材、評価テストを作成するとともに、NHK語学番組を活用し、小学校教員を対象にした研修会や教材作成を行います。
- ・ 生徒が英語を聞き話す活動を充実させた授業を進めるとともに、地域の観光地など福井のよさを英語でPRする機会を設けるなど、使える英語の力を育成します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
英検3級相当以上を取得した中学生	42%	47%	50%	52.5%
英検準2級相当以上を取得した高校生	42%	45%	50%	52.5%

- ・ 地区ごとに経験豊かなALTが中心となって指導法を共有するとともに、日本人教員による日本語講座を実施し、放課後に生徒と交流する機会を増やすなど、ALTの指導力や日本語力を高めます。
- ・ 高校と大学が連携して中国語や中国経済の授業、中国人留学生との交流を行うなど、中国語教育を進めます。

◇「福井型18年教育」の進化【部局連携】

○小・中学生の学力向上

- ・ 新たに、効果を上げている学校の特長ある指導方法や教材を収集するとともに、全小・中学校に提供し、指導主事による継続的な学校訪問を行うことにより、指導方法等の確実な定着・普及を図ります。
- ・ 小学校高学年において理科の教科担任制の導入を進めるとともに、中学3年生の英語の習熟度別授業を中学2年生に拡充します。

○「学力・体力」に加え社会参加を促進

- ・まちづくりへの参画や農業体験など、児童・生徒が地域住民や企業とともに企画・提案する体験学習の実施校を拡大します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
提案型の体験学習を実施する小・中学校 (累計)	—	28校	142校	257校

- ・主権者教育にかかる指導事例集を作成し、高校の教員向けの研修を充実するとともに、模擬選挙の実施や国・地域の課題を話し合うなどの実践的な学習を行い、生徒の主権者としての意識を育てます。

○高校の学力向上

- ・校長をトップとした大学指導体制を強化し、校内の教科研究会において教員の指導力を高めるとともに、生徒の成績分析を行い、学力向上を徹底します。
- ・到達度確認テストの問題作成教員を増員し、若手・中堅教員を育成するとともに、新たに指導主事が分析結果をもとに学校訪問を行い、授業を改善します。
- ・学校と生徒・保護者の連携を密にし、1年生から保護者を含めた研修を行うなど、進学指導を強化するとともに、2年生から志望大学別の対策講座や個別添削指導を新たに実施します。
- ・記述・論述型問題の拡充や高校ごとの選択問題の導入、外部検定を活用した英語スピーキング評価など、新たな高校入試制度を平成30年度県立高校入学者選抜から実施します。
- ・2年目を迎える大学進学サポートセンターにおいて、退職教員による学習会を拡充するとともに、新たに推薦入試等の学習支援を実施します。

○幼児教育の充実

- ・市町幼児教育アドバイザーや園内リーダーを養成するとともに、幼児教育支援センターによる巡回訪問を増やします。

○教員の授業力・指導力の向上

- ・教育総合研究所において、教員研修を総合的に見直し、学校のマネジメントや実務に役立つ研修を強化するとともに、通信型研修の活用などにより効率化を進め、教育力の向上を図ります。
- ・教科指導や学級経営など、若手教員グループによる自主研究の支援を拡充し、教員の研究活動の活性化を図ります。
- ・授業に役立つ教材作成や情報収集を進め、速やかに教員に提供します。
- ・新たに「教育博物館」を開設し、福井ゆかりの教育者や教育の歴史を展示するとともに、全国トップクラスの福井の教育を県民や全国に発信します。 **交流拡大施策**

○学校業務の効率化

- ・管理職による教員の勤務時間管理を徹底するとともに、新たに平日の部活動休養日の設定や外部人材の活用により、教員の負担を軽減します。
- ・新たに各学校共通の校務支援システムを整備し、校務の効率化を進めます。

○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム

- ・職業系高校の生徒の資格取得や企業実習等の成果を福井フューチャーマイスターとして認定し、企業の即戦力となる人材を育てます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
福井フューチャー マイスター認定者数	—	1,854人/年	1,900人/年	1,900人/年

- ・若狭東高校において薬草の産地化や施設園芸に対応できる教育を進めるとともに、福井農林高校、坂井高校において栽培に加え、加工や流通など経営の学習を拡充します。

○児童・生徒はみんな笑顔に

- ・いじめや不登校について、学校のスクールカウンセラーを含めたチーム対応を充実するとともに、新たに教育総合研究所に学校サポートチームを設置し、深刻ないじめの解消や引きこもり児童生徒の学校復帰を支援します。
- ・特別支援学校に学校ジョブコーチを増員し、就労応援サポーター企業や実習機会を拡大するなど、生徒の一般就労を進めるとともに、一人ひとりの特性に合わせた就労支援を行います。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
特別支援学校生徒の 一般就労率	32.9%	40.5%	35.0%	35.0%

◇学校の再編・統合

○県立高校の次なる再編に道筋

- ・丹南地区では地区懇談会を開催し、再編整備計画の検討を進めます。二州地区においては地元関係者との協議を開始します。

3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

◇県民の健康サポート・システム【部局連携】

○子どもの目と歯・生活の健康

- ・全小中学校において、遠くを見るなど目を休める時間を設けるとともに、目の動きをスムーズにする運動を実施し、近視予防につなげます。
- ・歯科医師会と協力し、全小学校において「正しい歯みがき教室」と、すべての1、4年生を対象にした歯の二次健診を実施するとともに、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
むし歯のない小学生	68.4%	70.0%	72.0%	73.6%

- ・インターネットの適正利用について、全ての小・中学校において生徒が自主的にルールを作成するとともに、高校においては生徒会が中心となって話し合いを進め、「ふくい高校生スマートサミット」を開催します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
小学校におけるルール作成	85.4%	97.4%	100%	100%
中学校におけるルール作成	88.0%	100%	100%	100%

- ・子どもに正しい生活習慣、読書やお手伝いの習慣を身に付けさせるため、PTAと連携した研修を行うなど、家庭の教育力を高めます。

4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○日本で一番おいしい学校給食

- ・小中学校において、本県独自の教材と実践事例を用いた食育授業を行い、児童生徒の食への理解を深めます。
- ・県漁連やJA等と協力し、安価な地魚などの地場産食材を活用したおいしい学校給食を提供します。
- ・学校給食調理コンテストを開催し、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップを図ります。

5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○観光人材の育成

- ・商業系高校の観光の授業において、旅行業者などの外部専門家による授業や地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から魅力ある観光プランを発信します。

6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇県民総参加の福井国体【部局連携】

○競技力を高め「優勝」の実現

- ・今年のア媛国体で10位以内に入賞するため、少年競技を中心に国内の優れた指導者による指導機会を増やすとともに、県外強豪チームとの練習機会を増やし、接戦を勝ち抜く技とメンタルを強化します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
国体総合成績	26位	18位	10位以内	優勝

- ・「スポジョブふくい」等により日本代表級を含めた有力選手の確保を進めます。また、実業団等の一線で活躍する本県出身選手と地元選手の練習機会を増やすとともに、ア媛国体からの出場を実現し、チームの連携を深めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
有力選手確保数 (累計)	110人	180人	220人	220人

- ・北信越国体福井大会（ア媛国体ブロック予選）で本県選手を励ます応援団を結成し、本国体出場競技を増やすとともに、福井国体の応援体制づくりに活かします。

◇「スポーツ福井」の実現

○子どもから大人まで気軽にスポーツ

- ・国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
イベント開催数	25回/年	29回/年	32回/年	34回/年

◇福井の文化をもっと身近に

○文学館の新展開

- ・本県とゆかりのある他県の文学館と連携を進め、資料の相互交流や共同企画を実施するとともに、展示内容の充実を図ります。
- ・「ふくい文学ゼミ」の修了生をはじめ、県内高校の文芸部などの活動を紹介し、交流する場として文学フェスタを開催するなど、若い世代の文学者の創作活動を支援します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
文学ゼミ修了者数 (累計)	28人	48人	68人	88人

- ・小・中・高生が関心を持つ図書・資料を充実するとともに、学校と連携して子どもが利用する機会を増やし、文学館や図書館の活性化を進めます。

○子どもの芸術・文化活動

- ・新たに、吹奏楽部に対し外部指導者による演奏指導や大型楽器の整備を支援するとともに、中・高連携による合同練習・演奏会を開催し、吹奏楽の演奏技術の向上を図ります。
- ・一流の演奏家による指導や合同練習・合同演奏会の機会を拡充し、小・中・高校におけるバイオリン等の弦楽奏者を育成します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
弦楽クラブ等参加者数	155人/年	171人/年	190人/年	200人/年

- ・小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行うとともに、芸術大学との連携を進め、出前授業や美術部員の研修会を実施する研究推進校を増やします。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
研究推進校(美術)	35校/年	37校/年	39校/年	41校/年

○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ

- ・福井の先人の業績や生き方、歴史背景などをわかりやすく展示するとともに、体験メニューを拡充し、学校の団体利用など来場者数の拡大を図ります。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
来場者数	54,291 人/年	55,187 人/年	57,000 人/年	60,000 人/年

◇ 福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】

○国宝・重文の指定迅速化

- ・工芸技術、建造物や古文書などの文化財の指定を進め、観光やまちづくりへの活用につなげます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
国宝・重要文化財・ 県指定文化財の新規 指定件数（累計）	11 件	25 件	35 件	45 件

- ・丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の絞込み等、歴史的価値を明らかにするための調査を支援します。